



ほほえみ



↑人権教育係の
ホームページ



令和4年度 栃木県人権に関する作文 最優秀賞受賞作品

「僕と吃音」 小山市立小山城南小学校 6年 松浦 奏音さん

僕には、「どもる」という個性がある。母に聞いた話だと、三歳ぐらいから発症したらしい。はじめの一言が出しづらく、上手に話ができなかった。自分の意見を人に伝えるのが苦手だったようだ。友達と言ひ合ひになってもうまく説明ができず、やってもいけないことを、僕のせいにされてしまうこともあった。とても悲しかったし、悔しかった。時には、話し方を真似されることもあり、笑われてからかわれて、心が傷ついたこともあった。とても生きづらさを感じたのは事実だ。

吃音というのは、言葉を話すときに、初めの一音がつまったり、同じ音をくり返したりしてしまう特徴がある。言葉の発達過程で発症することが多く、原因はまだよく分かっていないらしい。自然に治ることも多いようだが、吃音を心配した母が、放課後に「ことばの教室」に通級させてくれた。特に症状の緩和や改善には繋がらなかった。でも僕は、ことばの教室の先生に、どもってもいいということを教えてもらった。また、自ら先に、自分には吃音症があることを告げることで、相手に理解してもらえるようになるかもしれないことを学んだ。どもりは悪いことでもなんでもない事を知ることができた。

吃音は日々の努力や頑張りだけでは治せるものではない。わざと、変な話し方をしている訳でもない。そういったことが多くの方に伝わって理解してもらえたら嬉しい。僕は、吃音だからといって、恥ずかしくはない。これも僕の話し方の個性だ。そう思えるのも、僕は友達にとっても恵まれたからだと思っている。今では、僕の話し方を気にすることなく、きちんと

耳を傾けて、話を聞いてくれる友達がいることに、とても感謝している。お互いの意見が合わず言い合いになっても、対等に反論し合える仲だ。それは、僕に自信と勇気をくれた。「どもってもいい。」そう感じることで、積極的に人前で話もできる。

僕は将来、どんな仕事がしたいか、具体的にはまだ決まっていはいない。確かに、流暢に話す程の自信はないので、選択肢は無限にある訳ではないが、人の幸せを願い、人の為に働ける大人にはなりたいたいと思っている。だれかに優しくすることで、その人もまた別のだれかに優しくするという優しさの連鎖ができることを知ったからだ。僕にできることは、限りがあるかもしれないけれど、同じ吃音がある人が悩んでいたなら、自分の失敗や経験を伝え、前向きに頑張っている自分の姿を見せたい。そして、「吃音」を理解してもらい、差別のない社会になれば良いと願っている。

栃木県教育委員会 人権に関する作品コンクール 最優秀賞

【出典：人権に関する文集 『あすへのびる 第42集』 掲載作品】



誰もが自分らしく生きていくために、多様な性について一緒に考えましょう

近年、LGBTQをはじめとする性的少数者に関して、ニュースや情報に触れる機会が増えてきました。自分の性的指向・性自認に対する違和感は、幼少期から生じうる場合もあり、学校においては、平成27年(2015)年に文部科学省が「性同一性障害に係る児童・生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」を通知するなど、性同一性障がいを含めた性的マイノリティの子ども全体への対応を求められています。

小山市人権・男女共同参画課では、昨年3月に「第4次人権施策推進基本計画」を策定し、偏見や差別を解消し、自分らしく生きやすい社会にするための施策に取り組んでいます。また、生涯学習課人権教育係においては、各公民館における人権学習会や市職員、教員対象の人権研修会において、性の多様性に関する内容を取り上げ、人権啓発に努めています。

この社会の中には、性のあり方によって生きづらさを抱えている人も多くいます。誰もが自分らしく生きていくために、多様な性について考えていきましょう。

【今日からできること】

☆多様な性について関心をもち、「みんなが

多様な性の中の一人である」と考えて行動しよう。

☆差別的な言葉は使わないようにしよう。

☆見た目ではほかの人の性のあり方を決めつけないようにしよう。

☆ほかの人の性のあり方を、本人の了承なしに他人に伝えないようにしましょう。(アウティングは重大な人権侵害です!)



大切なのは、性的マイノリティの方を含め、一人一人の人権が尊重され、誰もが自分らしく生きることができる社会をつくることです。



私は～だと思っ
けど、どう思う?



本紙の内容や感想をご家庭で話題にしてみませんか?

